

県政活動報告書

令和2年号



みんなの声を県政へ
茨城県議会議員

きよし
とつか 潔



「人が輝くまちづくり」に全力で取り組んでいます！

皆様方には平素より外塚潔の県政活動につきまして、多大なるご支援とご協力をいただき誠に有難うございます。

本年は、**営業戦略農林水産委員会委員**として全国をリードし「**世界に飛躍する茨城**」の実現と**茨城農林水産業の成長産業化の推進**をテーマに調査活動を行って参ります。

三月定例会では**予算特別委員会委員**として本県の**令和二年度当初予算1兆1742億636万9千円を承認**しました。

審議では、**ジンベイザメ飼育の為の水族館建設費130億円を減額し新型コロナウイルス感染拡大防止対策関係等補正予算81億円の増額**と新しい豊かさ新しい安心安全へのチャレンジに主眼をおき議論を深めました。

4月27日には臨時議会を開き、**緊急経済対策等補正予算額963億33百万円をスピード感をもって対応する強力な支援策として承認**しました。

世界は新型コロナウイルスの感染拡大の渦に囲まれ国内でも3月2日から小中高の休校が始まり感染防止対策に国県市と全力をあげて取り組んでおります。4月8日に発動した緊急事態宣言は7都府県に出しましたが隣接県の本県としても同等の対策が必要と不要不急の外出自粛の協力要請と公共娯楽施設の休館を行い6月5日時点、茨城県内の感染者数168人と最小限に押さえ込む事が出来ました。県民の皆さまのご理解とご協力を頂

いた成果であると感謝申し上げます。

6月19日から移動自粛要請の全面解除となり感染第1波収束宣伝がなされました。

今後も新しい生活様式を守りながら、第2波、第3波への感染拡大への備えを怠る事は出来ません。6月の第2回定例会では、新型コロナウイルス感染症の感染防止と、県内産業等への支援、アフターコロナと呼ばれる新しい生活様式への対応に**必要な予算を第2次補正予算額50億8百万円**が計上され主な議題として、特にPCR検査にかかる自己負担分の補助など感染拡大防止策と医療提供体制の整備等、放課後児童クラブに対する補助など県民生活等への支援、県内宿泊促進事業など県内観光飲食産業等への支援を、スピード感をもって対応出来るように議論を交わし承認致しました。

現在、皆さまの**生活、教育、経済、医療機関の問題**など身近な諸問題、諸課題をお知らせ下さい。

今後も霞ヶ浦を活かした地域の活性化、農林漁業の振興、子どもから高齢者まで安全安心な生活環境の充実、市内県道の歩道未整備箇所の解消などしっかりと進めて参ります。

令和2年も、「みんなの声を県政へ」という初心に沿い「もっと便利に、もっと快適に、人が輝くまちづくり」を実現するための活動をして参ります。

引き続き県政発展のために尽くして参る所存でございますので、皆様方には、倍旧のご指導ご鞭撻をいただけますようお願い申し上げます。

ジンベイザメ
展示予算を
大幅減額修正可決!!



熱中症予防行動×コロナ感染防止で
「新しい生活様式」を健康に!

詳しくは
こちらから



1. ナショナルサイクルートの指定を契機とした地域振興について

(1) 県全体へ波及させるための取り組み



外塚議員質問

昨年11月、つくば霞ヶ浦りんりんロードが、第一次ナショナルサイクルートに指定された。指定の効果を県全体に波及させていく取り組みが必要だと考える。

知事のリーダーシップのもと、本県ならではの特色を最大限に生かし、時代に合った取り組みを進めていくことが、**サイクリング王国いばらきの実現**、さらには、県内の地域格差の解消、地域の活性化にもつながっていくのではないかと考える。

ナショナルサイクルートの指定を機に、サイクリングを生かした**本県の地域振興**にどのように取り組んでいくのか。



(2) 筑波山地域ジオパークとの連携



外塚議員質問

筑波山地域ジオパークは、今年、4年に一度の再認定審査を迎える。

この**地域のジオパーク**の取り組みが継続的に進んでいくことを期待しており、そのための有効な方策の一つが、**つくば霞ヶ浦りんりんロードとの連携**だと考える。本県の誇る**地域資源**を組み合わせ合わせた取り組みに県みずから力を入れていくことが筑波山地域ジオパークの再認定はもちろん、地域全体の、本県全体の魅力の向上にも寄与する。

つくば霞ヶ浦りんりんロードと筑波山地域ジオパークの連携に今後どのように取り組んでいくのか。



大井川和彦知事答弁



ナショナルサイクルートの指定は、沿線地域全体の魅力をPRしていく絶好の機会である。

国や指定を受けた他の2つのルートの自治体などとこれまで以上に連携を図りながら、インバウンド誘客の視点に立って、情報発信や誘客の取り組みを一層進めていく。

同時に、**この流れを一段と加速させ、地域全体の盛り上げ**につなげていくためには、沿線市町村や企業・団体の主体的な取り組みをさらに促進するとともに、官民が連携して沿線全体で稼げる地域づくりを進めていく必要があると考えている。

昨年2月に策定したいばらきサイクルーツーリズム構想に基づき、ハード・ソフト両面から一層の誘客に向けた取り組みなどを推進していく。



政策企画部長答弁



筑波山地域ジオパークの活動に、つくば霞ヶ浦りんりんロードを活用していくことは、双方の取り組みの活性化につながるものと考えている。

現在、筑波山地域ジオパーク推進協議会では、**つくば霞ヶ浦りんりんロード周辺のジオサイトをレンタサイクルでめぐるコースをモデルコースの一つとしてパンフレットで紹介**しており、地元市では、**ジオガイドと一緒にサイクリングするジオツアー**などの開催にも取り組んでいる。

また、県では、自然博物館職員によるジオガイドの育成や、ジオサイト案内板設置に必要な手続の調整などのほか、庁内連絡会議を毎年開催し、情報交換や意見交換を行ってきた。

今後は、広範なエリアのジオサイトをめぐるサイクリングルート設計などについて、関係市町村に働きかけていく。

2. 県公用車へのドライブレコーダー設置について



外塚議員質問

平成28年第1回定例会で、職員の交通安全意識の向上について質問をし、**県公用車へのドライブレコーダー設置を提案**した。

公用車を運転する職員を守るためにも、県の所有する全公用車への早期設置を要望する。

県では、平成29年に公用車の管理及び運行に関する規定を定めたが、**ドライブレコーダーについても、管理や運用に関する基準が必要**ではないか。

県の公用車におけるドライブレコーダーの設置の状況を伺うとともに、ドライブレコーダーの管理・運用に関する基準の策定について、所見を伺う。



総務部長答弁



現在、平成30年度から令和2年度までの3力年で、**1,046台全ての公用車に設置**することとして計画的に取り組んでいるところであり、今年度末時点では全体の**約8割に相当する832台に設置が終了**する予定であり、来年度中には、残り2割、214台も完了する見込みである。

今年度末に全体の約8割の公用車にドライブレコーダーが設置される状況に鑑み、撮影された画像情報等の適切な取り扱い等について定める**ドライブレコーダーの管理・運用に関する要綱を策定し、年度内に庁内に周知**していきたい。

あわせて、職員に対しては、公用車を運転する際の安全運転の励行、交通法規の遵守等についても改めて周知・徹底していきたい。

3. 急性期を脱した患者の円滑な受け入れについて



外塚議員質問

土浦二次医療圏では、高度急性期と急性期の病床に対して、**回復期の病床が少なく、バランスのとれた病床機能の構築が求められている**状況にある。

また、各病院では、**医療ソーシャルワーカー**による転院の調整がうまく機能していると言えるのか。

急性期から在宅に至るまで、患者や家族にはさまざまな職種の専門人材がかかわる。**患者や家族を支え、その心に寄り添う専門人材の充実**を図っていくことも重要である。

急性期を脱した患者の受入先の確保と円滑な受け入れは、土浦二次医療圏のみならず、全県的に解決が必要な課題である。

急性期を脱した患者の受け皿をどのように確保し、円滑な受け入れをどのように進めていくのか。



保健福祉部長答弁



急性期を脱した患者の転院を円滑に進めることは、地域の医療資源が最大限効率的に活用されるためのみならず、患者の病態に合った良質な医療が切れ目なく適切に提供されるためにも重要である。

急性期を脱した患者の円滑な受け入れ体制のハード・ソフト両面からの支援が必要と考えている。

ハード面については、**急性期病床から回復期病床へのさらなる転換を促進**するため、県内医療機関からの要望を踏まえ、来年度から**補助事業の予算を増額**するなど、支援を拡充していく。

ソフト面については、市町村が開催する地域ケア会議に多くの専門職の参画を働きかけるなどの取り組みを強化することにより、医療ソーシャルワーカーを含む多職種連携を一層推進していく。

4. 放課後の子どもたちの居場所の充実について



外塚議員質問

子どもたちにとって、放課後児童クラブは、異なる学年、異なるクラスの子どもたちとの交流を通じた生活の場であり、遊びの場、学びの場でもある。

今後は、障害のある子どもや日本語能力の十分でない子どもなど、特別な配慮を必要とする子どもの受け入れも進んでいくと考えられる。

放課後の居場所づくりに当たっては、量的な整備を行うことはもちろん、同時に、**スタッフの処遇の改善やレベルアップなどにより、質の向上**を図っていくことも欠かせない。

今後、放課後における子どもたちの居場所づくりをどのように進め、また、質の向上をどのように図っていくのか。



福祉担当部長答弁



放課後児童クラブの対象児童の範囲が**小学校6年生までに拡大され、利用希望者が増加したことなどにより、待機児童が発生**している市町村がある。

このため、市町村が計画的な整備を進められるよう、必要な予算の確保に努め、施設整備の推進に向けて積極的に働きかけている。

あわせて、放課後児童支援員の確保のため、認定資格研修を実施するとともに、スキルアップ研修を実施することなどにより、処遇の改善につなげていく。

また、特別な配慮を必要とする児童・家庭への対応も増加していることから、継続的に専門家を派遣し、**支援員にアドバイスを行うなど、クラブ全体の質の向上にも取り組んでいく。**

さらに、放課後子供教室との連携を促進することで、クラブに参加する児童の学習機会の拡大を図っていく。

5. レンコンの黒皮症対策について



外塚議員質問

県内のレンコンの産地では、10年ほど前から、表面に不規則な黒い点や凹凸を生じさせるレンコン黒皮症の発生が大きな問題となっている。

県では、**黒皮症対策として、総合防除法を考案**し、生産現場に示しているが、黒皮症の発生はやむことがなく、むしろ拡大しているとの声を現場から聞く。

黒皮症の原因でもあるセンチウは防除が難しく、一つの対策のみでの解決は難しいが、県には、休作した場合の経済的な支援や**新しい農薬の登録、圃場の外に残渣を運び出すロボットの開発**など、現在の総合防除法を超える**ハイブリッド防除法**と言うべき、一歩進んだ、農業者がより取り組みやすい対策の手を打ってほしい。

レンコンの黒皮症対策について、県は今後どのように進めていくのか。

農林水産部長答弁



黒皮症被害の発生状況をできるだけ正確に把握するため、調査を開始したところであり、今後3年以内を目途に、順次、拡大していく。

また、生産者への指導に当たっては、直接個別指導を行い、対策の内容の見直しを提案することで、正しい総合防除法の普及と実践を図っていく。

新しい農薬が登録された場合には、より高い効果を見込むことのできる使用法を研究し、生産者に指導していく。

さらに、**残渣の処理については**、例えば、**簡易な運搬機械の開発のメーカーへの働きかけ**や、集团的・組織的な堆肥化の取り組みなどについて、市町村や生産者と協議を行い、適切な処理ができるよう努めていく。



6. 国道354号の整備について

(1) 舗装の修繕の必要性と見通し



外塚議員質問

国道354号のかすみ
がうら市内を通る約14
キロメートルの区間は、
鹿島港から飼料などの

荷物を積んだ大型車が大量に行き交い、それに伴う道路損傷が激しい状況である。

このうち、約4キロメートルは、舗装だけでなく、その下の砕石部分までを改良する抜本的な修繕工事を実施することとし、昨年度末時点で約2.8キロメートルの修繕を行ったと聞く。

路面の状況を定期的に調査し、掌握しながら、補修が必要な部分については、**砕石部分まで改良する抜本的な修繕工事を実施してほしい**と考える。

国道354号のかすみがうら市内の区間における舗装の修繕工事の進捗状況と今後の見通しについて、修繕工事の対象区間の拡大の可能性も含め、伺う。

(2) 戸崎地区の急カーブ区間の緩和の見通し

外塚議員質問

昨年8月、かすみがうら市戸崎地区の国道354号のカーブ区間で、少年の運転する乗用車が反対車線に飛び出し、軽乗用車と正面衝突し、軽乗用車に乗っていた70代の夫婦が亡くなるという事故が発生した。

このカーブ区間では、平成26年にも、無免許運転の車が反対車線に飛び出し、対向車と正面衝突をするという事故が発生している。このとき、はみ出した側の車に乗っていた3人が亡くなり、**地元では魔のカーブ**とも言われる。

既存の道路の危険な箇所をなくし、安全・安心な道路にしていくことは、新しい道路の整備に劣らぬぐらい重要なことだと考える。

国道354号の戸崎地区の急カーブ区間の直線化について、これまでの県の対応と今後の見通しを伺う。

土木部長答弁



県では、茨城県舗装維持修繕計画に基づいて計画的に修繕を実施しているところである。

かすみがうら市内の国道354号についても、近年は大型車交通量が増加し、**劣化や損傷が進んでいる箇所がある**。

劣化具合を表す指数、いわゆるMC1が3未満で、特に損傷が著しい約4キロメートル区間については、詳細な現地調査の結果に基づき、**舗装の表面だけでなく、その下の砕石部分までを改良する抜本的な修繕工事を行ってきている**。

これまでに約3.6キロメートルの修繕を終えており、来年度も、残る区間について同様の工事を実施していく。

修繕の対象区間の拡大の可能性については、定期点検の結果や県管理道路全体における優先性を踏まえながら、**新たな区間の修繕の必要性やその時期を検討していく**。

土木部長答弁

かすみがうら市戸崎地区では、土浦市境から約300メートル東側に見通しの悪い急なカーブ区間があることから、スピードに乗った車両が、カーブを曲がりきれず、対向車線にはみ出し、正面衝突する事故が多発している状況である。

県は、応急対策として、前後の直線区間を含めた約600メートル区間について、**ドライバーへの注意喚起や走行速度の制御を促すため、区画線を工夫したり、「カーブ注意」や「速度注意」といった路面標示を設置**するなど、事故防止のための即効的な対策を講じてきた。

さらに、抜本的な対策としては、急カーブ区間の緩和などが考えられるが、事業費が大きくなることが想定されることから、今後の調査や設計などを踏まえて、**適切な対策を検討し、国の補助事業の活用も考慮しながら、交通安全対策に取り組んでいく**。

完了! 国道354号の事故防止対策整備



7. 高齢者が運転免許を返納しやすい環境づくりについて



外塚議員質問

警察署では、自主返納と運転経歴証明書の申請窓口は免許更新の窓口と同じであることが通常であり、窓口はいつも混んでいる。

自主返納のために警察署に来た人について、例えば、専用の窓口、あるいは専用の案内表示を設置するなどして、免許更新の人より優先的に取り扱うような仕組みがあっているのではないかと。

少なくとも、意を決して自主返納に来た人が、警察署で戸惑いや不安を感じずに済むような環境づくりが必要である。

また、警察署だけではなく、身近な交番や駐在所で申請できるということを広くPRしていくことも大事である。

高齢者が運転免許を返納しやすい環境づくりをどのように進めていくのか。

警察本部長答弁



県警察では、自主返納や運転経歴証明書の申請をされる方の手続の円滑化に向け、警察署に申請に来られた方が、自主返納や運転経歴証明書の申請窓口であることがわかるような案内板を設置したり、窓口での高齢の方に対する声かけ等を実施するとともに、混雑時には、係員の柔軟な運用により、迅速に手続が行われるよう努めていく。

さらに、改正道路交通法により、運転免許証を失効した方についても、失効してから5年以内であれば、運転経歴証明書の申請が可能となったところであり、また、運転経歴証明書の交付を希望されない方については、交番、駐在所での自主返納申請や代理申請等による手続が可能である。

こうした情報の一層の周知を図るために、各自治体と連携し、広報活動等を推進して、申請者の立場に立った運転免許証を返納しやすい環境づくりに努めていく。



市内県道の歩道未整備箇所の進捗



中志筑三差路歩道未整備箇所



上佐谷小学校地区歩道未整備箇所



4月24日 土浦土木事務所に要望活動



(R354戸崎原地区急カーブの緩和実現に向けて)

令和2年第2回定例会 予算特別委員会質疑

2020年6月20日

現在、全世界で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に、衷心よりお悔やみを申し上げますとともに、感染された方々、様々な影響を受けられた方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

また、県民の皆様による感染防止の取り組み、日夜、医療現場で御対応に当たられた関係者の皆様のご尽力により、現在、新型コロナウイルス感染症は抑制された状態となっております。

6月19日から移動自粛の全面解除になり自由な往来が可能となりました。

3月定例会、4月臨時議会と2回の補正予算に続き、今定例会に提出されました6月補正予算案におきましても、アフターコロナと呼ばれる「新しいステージ」を見据えた取り組みも提案されております。

「新しい生活様式」の中で早期に「地域の復興」が、かない一日も早く平穏な日常が戻ることを切に願います。



1

新型コロナウイルス感染症による県内小中高校への影響と今後の対応について教育長に問う

- (1) 児童生徒の健康診断、体力テスト等の実施状況と対応
- (2) 小中高校におけるスポーツ大会・文化祭等の実施状況と対応



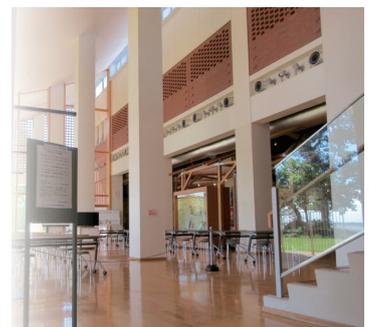
2

いばらきサイクルツーリズム構想の進捗及び今後の展開について県民生活環境部長に問う



3

霞ヶ浦環境科学センターの役割と課題及び今後の活用について県民生活環境部長に問う



4

ヤード条例施行後の自動車盗難防止等への取り組みについて警察本部長に問う



2020年 活動報告



2019年9月13日 総務企画委員会にて



10月29日 茨城県議会ICT化検討会議で東京都議会にて調査活動



11月12日 公共交通BRT調査活動



11月16日 ターゲットボードゴルフ調査活動



11月20日 市青少年相談委員水府学院視察研修調査活動



県議会議長へ



政策企画部長へ



知事へ



土木部長へ

11月22日 霞ヶ浦二橋建設促進活動



12月13日 総務企画委員会にて古民家を活用した茨城ブランド力向上の取り組みについて問う



12月14日 雪ふれあいの里公園冬のクラフト市調査活動



12月20日 2020年の土浦新港利用計画の調査活動



2020年1月3日 かすみがうら市お城市調査活動



1月7日 下稻吉中学校あいさつ声かけ運動調査活動



1月28日 「災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定調印式」調査活動



1月28日 県道土浦笠間線稲吉地区歩道未整備調査活動



2月4日 営業戦略農林水産委員会にて



2月5日 ワカサギ人工孵化体験事業調査活動



2月7日 県地域医療圏構想調査活動



2月10日 赤羽国土交通大臣へ市長・市議団とスマートIC設置要望活動



2月27日 「西成井バイパス開通式典」調査活動



3月10日 令和2年第1回定例会一般質問



3月12日 常任委員会にて儲かる農業について問う



3月18日 予算特別委員会にてジンベイザメ展示予算について問う



3月27日 神立病院コロナ感染防止対策調査活動



6月17日 営業戦略農林水産委員会にてコイ養殖業支援策について問う



発行 / 茨城県議会議員 外塚 潔

〒315-0055 かすみがうら市稲吉南3-14-20

mail:totsuka.kiyoshi@poplar.ocn.ne.jp

http://www.totsuka-kiyoshi.net

TEL 029-831-6880 FAX 029-831-6882

